

令和4年8月1日(月) 9:00~12:00 (オンラインで実施)

【研修内容】

○新領域「光輝(かがやき)」学年区分実践研修会

【研修の目的】

○研究構想に基づく「光輝(かがやき)」及び「光輝(かがやき)視点の保育」の実施の効果を各学年区分で紹介し合い、「光輝(かがやき)」の研究開発の総括に向けた方向性の確認を行う。

【研修の流れ】


- ・各学年区分による7月までの研究結果を発表
  - ①幼小接続期部会
  - ②転換期部会
  - ③小中接続期部会
  - ④義務教育完成期部会
- ・発表の視聴後、ブレイクアウトルーム(前半・後半)に分かれて各学年区分の取組について質疑応答および協議
- ・全体で、各部会内での質疑内容の確認・共有
- ・研究開発のまとめに向けたご助言(エリザベト音楽大 教授 三村真弓先生より)

【各区分の発表より】

**幼小接続期**

★子どもたちの思いや願い(不安感や期待感)を大切にしたいカリキュラム  
→子どもへのまなざしや関わり方の接続を大切に

《今年度の重点目標》  
幼小接続カリキュラムの実施と完成  
→「光輝(かがやき)」及び「光輝(かがやき)視点の保育」を通して、幼小を円滑に接続する活動と単元を開発する。



週1回の幼小部会

**転換期で大事にしていること**

- ・転換期の発達課題を乗り越えさせる
- ・幼小接続期から小中接続期へのつながりを大切に  
→子どもの思い・願いと教師のねらいを融合させた単元作り
- ・具体的思考と抽象的思考との往還を図る  
→振り返りの充実  
自己や集団の成長の視覚化

小学校での学びを中学校へ

小:探究のプロセスを経験


↓

中:グループ探究学習で探究のサイクルを自主的に回すことができる子ども

**8年・9年光輝(かがやき)探究学習**

個人に興味関心で2年間かけてテーマ(問い)を探究  
「誰かのために役に立つ研究」(自研自究との関係)  
・仲間との議論や対話を重視 教員との探究に関する個人面談  
・研究者など人の生き方に触れる・発信や社会参画する場の設定

**2年間の探究学習の主な流れ**



学年	主な学習内容
8年	なぜ探究学習をするのか(自分自身を知る)授業の探究学習に参画(参画を通して)
9年	自由に探究分野を探索(テーマ設定しよう・仲間との対話・先生との関係)
8年	探究テーマを絞り込もう(コア書籍・先行研究などの資料収集)
9年	研究分野(探究テーマ)を決めよう。クラス・学年で発表会
10・11月	情報カードを作っている(ヒューズの作成)
12・1月	研究計画を立てる(ヒューズの作成)9年生進研発表会
2月	探究テーマ・研究計画の発表 全校発表会の実施
3月	一問題の所長と研究の軌跡として、どのような研究方法で進められたかを報告して発表する
3・4・5月	情報カードを完成させていく(ヒューズの作成)
6月	仲間の探究テーマや研究方法に学ぶ機会として発表する。クラスで発表会
7・8月	探究を深める(調査やフィールドワークなどでヒューズの作成)
9月	探究を深める(ヒューズをつなぐ)進研発表会での発表
10月	探究学習発表会での発表会(9年生の生徒代表も参加)
11月	進研発表会に向けて論文の作成
12月	探究学習発表会(金賞表彰も行う発表会)

3. 学習したことを表現することで、多様性社会における自己の生き方について考える。

2. 得られた事実を根拠として、相手に分かりやすく表現したり、自分の考えを提言する。

1. 自ら課題を見出し、見通しを持って多面的・多角的に調べたり考えたりする。